

## 言い方を変えて

校長 鈴木 隆志

今年も、猛暑・酷暑の夏でした。「観測史上最高の」とか、「今まで経験をしたことのないような」とかの表現を何度も耳にしました。局地的な豪雨、落雷、桜島の噴火等のニュースに触れるたびに、自然の力にはかなわない人間の非力さを感じてしまいます。2年半前の東日本大震災のことが心から離れません。それでも人間は、困難に負けない強さ、逆境から立ち上がる強さをもっています。光っ子たちも、強くあってほしいと願っています。

さて、うだるような暑さの中での夏休み、御家庭ではどのようにお過ごしになったのでしょうか。暑さのために、大人もイライラが募ります。子供に対しての物言いにも悪影響を及ぼしかねません。子供たちが育つ、子供たちが伸びる言葉かけについて、考えてみたいと思います。

## ■〇〇しなさい

「片付けなさい。」「勉強しなさい。」「早く寝なさい。」あれをしなさい、これをしなさいという、命令型の言葉かけや大声での指示は、子供によっては怒られていると感じてしまうことがあります。かえって指示に従わなくなることもあります。命令ばかりされていると、自分で考えて行動することができなくなってしまいます。「〇〇しよう。」という言葉かけに変えてみるとよいでしょう。学校でも、『サイよりゾウ』『怒鳴ることではない厳しさ』を合い言葉にして、光っ子たちに接しています。

## ■ダメじゃないか

「これじゃダメだ。」「〇〇しなきゃダメじゃないか。」ダメ、違う、変だ、おかしいという否定型の言葉かけでは、子供は自信を失います。頑張れる、自分にはできるという気持ちにはなれません。否定ばかりされていると、不信感も育ってしまいます。おまけに、「これじゃダメだ。おまえはバカだなあ。」「〇〇しなきゃダメじゃないか。ずるいぞ。」などと、子供の人格までも否定するようでは、心は離れていきます。「こうするといいよ。」「〇〇すれば大助かりだよ。」という肯定的な言葉かけが必要です。学校でも、褒めて伸ばすことを大原則にしています。もちろん、「ならぬものはならぬ」で、叱るべきことには毅然とした態度で臨みます。

## ■〇〇に比べて…

「お兄ちゃん／お姉ちゃんに比べてあなたは…」「〇〇ちゃん是可以するのに…」という比較型の言葉かけには、子供は納得もしなければ愛情を感じることもできません。比べられた対象に、無意識に敵意をもつことさえあります。学校でも、『みんな違ってみんないい。認め合えればもっといい。』ということを常に心掛けています。

ドロシー・ノー・ノルト、レイチャル・ハリスの詩『子は親の鏡』を思い出しました。彼女たちの著書『子どもが育つ魔法の言葉』をお読みになった方も多くいらっしゃると思います。家庭での親子の会話によって、子供たちは育っていきます。大人同士の会話を聞きながら、育っていきます。言葉かけ、言い方を大事にしていましょ。学校でも、子供同士の言葉遣いについて、気を付けて指導していきます。

終わりにになりましたが、夏休み中の様々なPTA行事、地域行事では、大変お世話になりました。心より、感謝申し上げます。ありがとうございました。